

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10	子ども科学技術人材育成事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ-②				
担当部署名	科学技術振興課	事業実施 (予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所				
事業内容	子どもたちの科学技術に対する興味、関心を高め、沖縄の科学技術、産業振興を担う人材の育成に繋げるため、OIST、琉球大学、沖縄高専等と連携し、科学教室、科学教育プログラム等を実施する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	41,855		40,172		40,000	
		(b)予算現額	41,855		40,172		40,000	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)前年度繰越額	0		0		0	
	A. 計(b+d)		41,855	0	40,172	0	40,000	
	B. 執行済額		38,474		35,660		39,679	
	うち交付金充当額		30,779		28,528		31,743	
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		91.9%	#DIV/0!	88.8%	#DIV/0!	99.2%	
予算の状況の説明		子どもたちの科学技術に対する興味、関心を高め、沖縄の科学技術、産業振興を担う人材の育成に繋げるため、令和4年度から新規事業(平成30年度~令和3年度で実施した子供科学技術人材育成事業の後継事業)として、OIST、琉球大学、沖縄高専等と連携し、科学教室、科学教育プログラム等を実施する経費として委託費等を計上した。執行率は99.2%であり、概ね計画的に執行できた。						
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	1. 先端科学教育プログラムの開催(高校生)3コース 2. 課題解決型科学プログラムの開催(小・中学生)5コース 3. 科学体験教室の開催(小学生以下)30回(うち離島開催:10回)	目標	-	-	-	① 3コース ② 5コース ③ 30回(10回)		
		実績	-	-	-	① 3コース ② 16コース ③ 44回(12回)		
	【R3年度以前】 1. 科学体験教室の開催(児童)40回 2. 課題解決型プログラムの開催(中学生)1回 3. 先端科学教育プログラムの開催(高校生)1回	目標	① 40回 ② 1回 ③ 1回	① 40回 ② 1回 ③ 1回	① 40回 ② 1回 ③ 1回	-		
		実績	① 76回 ② 3回 ③ 1回	① 49回 ② 3回 ③ 1回	① 70回 ② 3回 ③ 1回	-		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端科学教育プログラムの開催(高校生)については、ハイレベル型体験講座を3コース実施し、目標値を達成した。</li> <li>課題解決型科学プログラムの開催(小・中学生)については、ボトムアップ型体験講座及びハイレベル型体験講座を合計16コース実施し、目標値を達成した。</li> <li>科学体験教室の開催(小学生以下)については、ボトムアップ型体験講座を44回、うち離島地域で12回実施し、目標値を達成した。</li> </ul>						
	成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
		参加人数 1. 活動目標1関連:参加者計15名 2. 活動目標2関連:参加者計65名 3. 活動目標3関連:参加者計:1,000名	目標	-	-	-	① 15名 ② 65名 ③ 1,000名	-
			実績	-	-	-	① 17名 ② 225名 ③ 2,123名	-
【R3年度以前】 (活動目標1、2関連) ・参加者(保護者含む)について、科学技術に対する興味、関心が高まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。  (活動目標3関連) 理系進学(就職)希望率 70%以上。		目標	-	① 80% ② 80% ③ 70%	① 80% ② 80% ③ 70%	-	-	
		実績	-	① 86% ② 80% ③ 71.5%	① 88% ② 97.1% ③ 87.5%	-	-	
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>先端科学教育プログラムの開催(高校生)については、参加者が17名となり、目標値を達成した。</li> <li>課題解決型科学プログラムの開催(小・中学生)については、参加者が225名となり、目標値を達成した。</li> <li>科学体験教室の開催(小学生以下)については、参加者が2,123名となり、目標値を達成した。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・科学教育プログラムの参加者について、理系科目への興味・関心、習熟度について多様な参加者がいることから、プログラムに対する参加姿勢のばらつきやプログラム内容の難易度と参加者にミスマッチが起きている。</p>	<p>・科学教育プログラムについて、理系科目への興味・関心、習熟度や年齢等に応じたプログラムの構築と周知広報に努めることによりミスマッチを防ぐ必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>・科学教育プログラムの実施について、科学技術に対する興味、探究心を喚起することを目的としたボトムアッププログラム、科学技術に対する更なる探究心の向上、能力を目的とするハイレベル型プログラムのように難易度別、対象年齢別に設け、幅広い人材の育成を図る。</p> <p>・科学教育プログラムへの参加申込が想定より多いため、実施回数を増やし、より多くの子どもたちが科学技術に触れる機会を創出する。</p>		

<b>資金の流れ</b> (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
39,679	39,679	31,743	7,936	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象 事業費 39,679千円] --&gt; B[委託料 39,361千円]     A --&gt; C[事務費 318千円]     B --&gt; D[一般財団法人沖縄県公衆衛生協会 39,361千円]     D --- E["(科学教室、科学教育プログラム等の実施)"]     C --- F["(旅費等)"]           </pre>						
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目				評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。				○委託業者は、公募型プロポーザル方式により提案内容、業務体制、予算規模などを総合的に勘案して選定しており、妥当であると認められる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。				○費目、使途については、金額の確定時に検査を行い、適正であると認められた。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

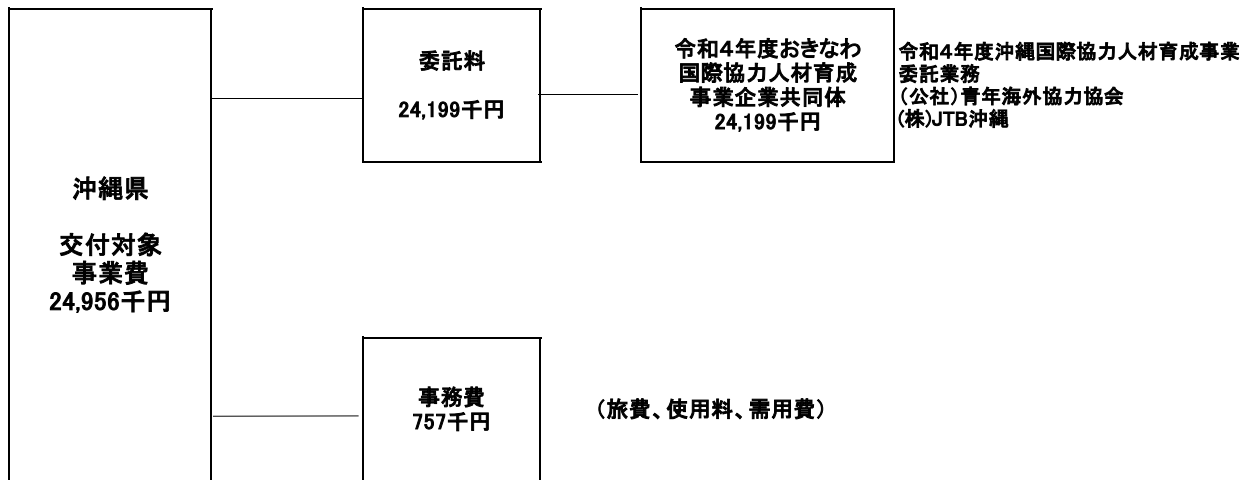
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	167	おきなわ国際協力人材育成事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章5-(3)-ア②		
担当部署名	文化観光スポーツ部交流推進課	事業実施 (予定)年度	H 25 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多様な国際交流及び国際理解 教育の推進  Ⅲ-7		
事業内容	国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成を図るため、県内高校生を開発途上国に派遣する国際協力レポーターや国際協力出前講座等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	45,134		38,363		25,066
		(b)予算現額	14,623		25,066		25,066
		(c)増減額(b-a)	▲ 30,511	0	▲ 13,297	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	14,623	0	25,066	0	25,066
	B. 執行済額		14,539		24,403		24,956
	うち交付金充当額		11,631		19,522		19,965
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.4%	#DIV/0!	97.4%	#DIV/0!	99.6%
予算の状況の説明		・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」は、計画どおり11名を海外に派遣した。また、県内高校等での国際協力に関する出前講座を実施する「国際協力理解促進事業」は、離島を含む県内中学校・高校21校(延べ22回)で1,468名の生徒が受講した。 ・概ね計画どおりに実施できたことにより執行率は99.6%となった。					
活動目標 (指 標) 及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①途上国に派遣する高校生数 11名 ※R3年度はオンラインで実施	目標	39名	中止	39名	11名	
		実績	39名	中止	38名	11名	
	②国際協力出前講座実施校数 20校、1,000人以上	目標	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	20校 (1,000名)	
実績		20校 (2,456名)	20校 (1,020名)	21校 (1,524名)	21校(延べ22回) (1,468名)		
進捗 状 況 説 明	・開発途上国の国際協力現場へ県内高校生を派遣する「国際協力レポーター事業」は、計画どおり11名を海外に派遣した。 ・県内高校等での国際協力に関する出前講座を実施する「国際協力理解促進事業」は、離島を含む県内中学校・高校21校(延べ22回)で1,468名の生徒が受講した。募集にあたっては、他の国際交流事業との連携を図り情報発信を強化した。						
成果目標 (指 標) 及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	①海外派遣により国際的な視野が広がった生徒の割合:80%以上	目標		中止	80%	80%	
		実績		中止	100%	100%	
	②出前講座の実施により国際協力の必要性の理解が深まった生徒の割合:80%以上	目標		80%	80%	80%	
		実績		97%	95%	98%	
達成 状 況 説 明	・出前講座参加者へのアンケート調査の結果、国際的な視野が広がった生徒の割合が100%、国際協力の必要性に係る理解が深まった生徒が98%と高い数値となっており、事業目標を達成できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①海外派遣に関し、近年の国際情勢の動向・変化や感染症の状況など、安全な派遣国(地域)・視察先の選定、視察先との調整は派遣先の事情に通じた適切な実務能力と臨機応変な対応が求められている。 ②出前講座については、国際協力リポーター派遣参加生徒がいる高校以外からの開催依頼が少ない状況である。	①海外派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報等の把握に努めるとともに、派遣国(地域)決定後についても、現地の最新の情勢を踏まえて、臨機応変に対応することも必要である。 ②出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化するとともに、従来応募がなかった学校へのアプローチも課題である。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①海外派遣に関し、JICAや受託業者など関係機関と連携し、外務省の渡航情報等海外の安全情報等の把握に努めるとともに、コロナ禍により開発途上国へ派遣ができない場合であっても、国内で国際協力・地域おこし活動現場等の視察等を実施するなど、臨機応変に対応する。 ②出前講座に関し、応募がない学校などへの情報発信を強化、工夫するとともに、他の国際交流事業とも連携して、中学校、高等学校へのアプローチを強化する。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先				交付対象外経費
		うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	
24,956	24,956	19,965	4,991	0	0	0



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘察した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等による証憑類を確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	118	沖縄未来のIT人材創造事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ-①		
	担当部課名		商工労働部ITイノベーション推進課		事業実施 (予定)年度	H24 ~ R6 年度	ICT教育の充実
事業内容		・小学生から大学生までを対象とした未来のIT人材を育成する様々な事業に対して補助を実施する。 ・ITを応用する取組に関する魅力と可能性を伝えるためのイベントを開催する事業に対して補助を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】			R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	29,654	-	23,813	-	19,817
		(b)予算現額	27,554	-	23,813	-	19,817
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,100	-	0	-	0
		(d)前年度繰越額	0	-	0	-	0
		A. 計(b+d)	27,554	-	23,813	-	19,817
	B. 執行済額		25,782	-	18,566	-	18,679
	うち交付金充当額		20,625	-	14,853	-	14,943
	C. 次年度繰越額		0	-	0	-	0
	執行率(%) (B/A)		93.6%	-	78.0%	-	94.3%
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、補助団体において当初予定していた活動の一部中止等を余儀なくされ事業費に変更が生じたことから、執行率は94.3%となった。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	【R1活動目標】 補助件数	目標	6件	-	-	-	
		実績	8件	-	-	-	
	【R2、R3活動目標】 ①事業参加者数:1事業あたり100人程度	目標	-	参加者合計600人 (100人×6事業)	参加者合計600人 (100人×6事業)	-	
		実績	-	4,761人	4,933人	-	
	②広報イベント参加者数	目標	-	4,000人以上	4,000人以上	-	
		実績	-	4,285人	3,861人	-	
	【R4活動目標】 ①1事業者あたり平均10回開催	目標	-	-	-	10回	
		実績	-	-	-	70回	
②広報イベント1回開催	目標	-	-	-	1回		
	実績	-	-	-	6回		
進捗状況説明	(※学生に対する人材育成・啓発活動であることを鑑み、R4年度より活動目標及び成果目標を変更した。) ①については、コロナ対策等踏まえ対面形式とオンライン形式の開催を多数回行い、目標を上回った。 ②については、IT広報イベントとして「ハイブリッド版ITまつり2023」開催及びIT体験講座等を開催、目標を上回った。						

成果目標（指標） 達成状況	R4成果目標（指標）		基準値 （R1年度）	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 （R5年度）
	【R3成果目標】 ①補助対象事業のうち、次年度以降自走化できる事業の数	目標		3件	3件	2件	-
	実績		2件	0件	0件	-	-
②広報イベントアンケートにおいて、ITへの抵抗感が減少し、興味・関心を持ったという回答の割合が80%以上	目標		90%以上	90%以上	80%以上	-	-
	実績		94%	98%	97%	-	-
【R4成果目標】 ①事業参加者数：1事業あたり100人程度	目標		-	-	-	100人	-
	実績		-	-	-	1338人	-
②広報イベント参加者数	目標		-	-	-	4,000人以上	-
	実績		-	-	-	6,989人	-
達成状況説明	（※学生に対する人材育成・啓発活動であることを鑑み、R4年度より活動目標及び成果目標を変更した。） ①については、各取組の会場での出席者に加え、コロナウイルス拡大の影響に伴って実施したオンライン開催時における参加者も含み、目標を上回った。 ②については、IT広報イベントとして「ハイブリッド版ITまつり2023」を開催し、目標を上回った。						

R4-No.118

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該取組が業界において継続的な取組となるよう、多くの民間企業や団体の参画を促す必要がある。</li> <li>・児童・生徒に対する人材育成事業は意識啓発等の取組も含み、事業者にとっては採算が取りにくいことから、一定の公的支援は必要だと思われるが、各事業者において協賛金等を得る仕組みを構築することによって、将来的には県の支援がなくても取組が継続できる体制を促す必要がある。</li> <li>・学習指導要領改訂により、論理的な思考能力を養うことを目的としたプログラミング教育の必修化等IT技術者やプログラミング教育への関心が高まっている。</li> <li>・情報通信産業のみならず、全産業でDX推進の関心が高まっているため、IT人材のさらなる不足が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の新規開拓のため、教育現場と連携した取り組みを検討する。</li> <li>・IT業界自体の魅力発信と同時に、他産業との連携事例についても子どもたちに示し、ITの担う役割への興味・関心を高める継続的な取り組みを検討する。</li> </ul>

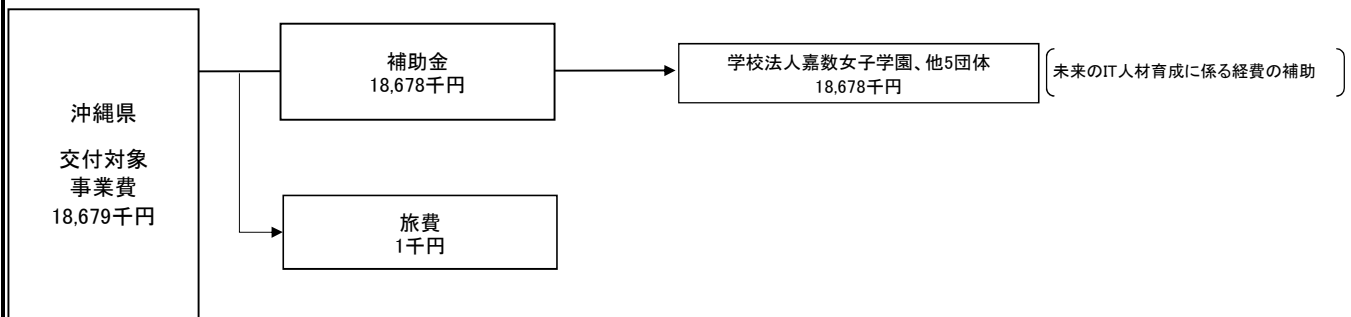
### 今後の取り組み方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育庁と連携し、本事業の広報を強化することにより参加者の裾野を広げる取り組みを実施する。</li> <li>・職業講話やIT広報イベント等において、情報通信産業と他産業との連携について知ってもらい、参加者の興味・関心を喚起する取り組みを検討する。</li> </ul>
---

### 資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
18,679	18,679	14,943	3,736	0	0	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象事業者については、選考委員会を開催し、事業実施体制、事業計画等を確認した上で選定しており妥当である。 ○予算は事業内容に見合った規模であり、適正である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要性等について、支出等関連書類により確認したところ適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	